

(一) 次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

賢い患者になりましょう。

こんな言葉がもてはやされたことがあります。実は僕も、「患者はもっと賢くあるべきだ」と思っていたクチです。薬の名前からいちゃんと覚えておかねばならない。病気についてもちゃんと勉強しておく。賢い患者にならねばならない、という理念はアメリカでは常識的で、僕も「それが正しい」と固く信じていました。

a 「賢い患者になる」というコンセプトは「勝ち組になりましょう」というコンセプトです。これは勝ち組の立場からの意見であり、上から見た見解です。もちろん、賢くなっても良いですよ。でも、そうでなければならぬ、と決めつけるのはよくないのです。

最近僕は、患者さんにだっているいろいろな方があって良いのだと思うようになってきました。**b**、薬の名前とかしつかり覚えてくるのはよいことですよ。インターネットで自分の病気について勉強するのも素晴らしいでしょう。しかし、何事も過ぎたるは及ばざるがごとし。僕らは病気と闘うため「だけ」に生きているわけではないのです。

c こういうことに固執しすぎて、目を**X**と輝かせて、病気のことだけ考えている患者さんを診ると、僕はちよつと困ってしまいます。**I**

「先生にお任せします」

とにこにこ平和な顔でおっしゃる患者さんは実に幸せそうに見えることがあります。そこまで無条件に主治医を信頼しているのですから。どんな薬を出されてもこういう患者さんは幸福です。こんな人にお節介を焼いて、

「医者の方で言っていることが正しいなんて保証はないんだから、ちゃんと薬の名前くらいチェックしておかないやダメよ。もしかしたら副作用が多かったり、値段の高い薬を押しつけられているかもしれないわよ。賢い患者にならなきゃ」なんて言っているはいけませんね。**II**

「先生にもらった薬なんですけど、名前は……ああ、なんて言いましたっけ」

というのも結構じゃあないですか。これこそ信頼の表れではありませんか。良好な「お医者さんごっこ」がそこで行われているのです。

別に薬の名前を調べたり、インターネットで病気の勉強をするな、というわけではありません。どんどん勉強したらよいのです。でもそれが医者を糾弾する「がために」行う勉強であれば、本末転倒。「医者の揚げ足を取ってやろう」的な目的で行う知識の取得は邪悪な性質を帯びてしまい、それは長い目で見るとその患者さん自身の**Y**を損なっていくという非常に不幸な経緯をたどることになるのです。これでは何のために「賢い患者」になったのだから分かります。

本当に賢い人は、実は凡愚のように見えるものです。黒澤明の「椿三十郎」じゃないですが、抜き身の刃物を出しっぱなしにしているのは本当の賢さではないのです。「ここでは全てあなたにお任せ……」という態度が適切な振る舞い方だな」と認識できるならば、その人はさらに「一段高い賢さ」を備えているのだと僕は思います。

「この先生は私のために生まれてきてくれたのだ」

と考えることが出来れば、「お医者さんごっこ」として上出来なのだ、という話をしました。今からまったく逆の話をします。Aという正論の逆はBという暴論なのではありません。同時に矛盾する二つの概念が成立してしまうのが大人の世界です。**Z** 「目の前の主治医はあなたのためにいるかけがえのない存在だ」と認識した方が良いのですが、その実、医者というのはあなたのためだけにいるわけではないのです。そういうことも同時に頭の片隅には置いておく。矛盾する概念を両方頭の引き出しに入れておいて、自由に都合良く活用する。これが「お医者さんごっこ」です。

病気を診ず、患者を診る。

という言葉があります。実は、僕の大嫌いな言葉です。通常は「良い言葉」とされるこの言葉が、なぜ僕の神経を逆撫でしてしまうのでしょうか。

d

、病気と患者というのは、対立概念ではありません。

III

患者があって病気があり、病

気があるから人は「患者」と呼ばれるのです。両者は本来お互いを内包する、共存する概念で、少しも対立していません。

少しも対立していないものを無理矢理対立させる。これは二項対立の好きな、単純思考な人たちの常套手段じょうたうしゅんです。日本のマスメディアの常套手段でもあります。

このようにありもしない対立概念を作ってしまう、仮想敵たる「病気しか診ない医者」に対するルサンチマンをつのらせ、そして自分はそうではない、正義の「患者を診る医者」であると、「こっち側」に引込込む。テレビで見ると、こんな番組ばかりでしょ、最近は。

そのような恣意性と偽善性を僕は嫌うのです。

同じような理由で僕の嫌いな表現に、「全人的に患者を診る」という言葉があります。全人的？ 患者を全人的に診るなんてたいていの医者にはとてもむりです。

IV

そういう出来もしないことをべらべらと口にする軽薄さが好きになれない。こういうことを軽々しく口にしてはいけない。患者の「本当の気持ち」なんてそう簡単に分かるわけがないのに、「分かったようなふり」をする軽薄さが気に入らない。

(岩田健太郎『患者様』が医療を壊す』より)

注1 「黒澤明(一九二〇～一九九八)」は日本の映画監督、脚本家。『椿三十郎』は一九六二年の作品。

問一 空欄

a

く

d

に入る最も適切なものを次の中からそれぞれ一つ選び、解答欄にマークせよ。(同じものを二度用いてはならない)

イ あまりに 口 しかし ハ そもそも ニ ところで ホ もちろん

問二 空欄

X

く

Z

に入る最も適切なものを次の中からそれぞれ一つ選び、解答欄にマークせよ。

X イ うるうる 口 ぎらぎら ハ くりくり ニ らんらん ホ りんりん

Y イ 健康 口 常識 ハ 精神 ニ 知性 ホ 分別

Z イ 偽善的には 口 現実的には ハ 合理的には

ニ ドグマとしては ホ ファンタジーとしては

問三 左の枠内の文は、本文中の

I

く

IV

のどこかに入るものである。最も適切な場所を次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

病気なんて、所詮しょせん人生の一要素に過ぎないのでから。

イ I 口 II ハ III ニ IV

問四 傍線部甲「矛盾する二つの概念」が具体的に指すものとして最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマ

ークせよ。

イ 賢い医者と思かな患者

口 賢い患者と思かな患者

ハ 病気しか診ない医者と思かな患者

ニ 唯一無二の主治医と万人のための医者

ホ 病気の勉強をする患者と主治医にお任せの患者

問五 「お医者さんごっこ」という表現が本文中に複数回出てくるが、筆者はこの表現をどのような意味で使っているか。最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 患者は医者は無条件に従う。
- ロ 患者は医者より劣っているようにふるまう。
- ハ 主治医は私（患者）のためにいるのだと心から信じる。
- ニ 医者と患者が共に建前と本音を上手に使い分ける。
- ホ 心の中では医者を信じていなくても、口では「先生にお任せします」と言う。

問六 本文の内容と合致するものを、次の中から二つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 医者を信頼する態度を示す患者は賢い。
- ロ 凡愚のように見える人は、本当は賢い。
- ハ 物事を固定的な二項対立として考えることは非生産的である。
- ニ 賢い患者は病氣のことを医者にすべてまかせてしまう。
- ホ インターネットで薬のチェックをしている患者は賢くない。
- ヘ 病氣しか診ない医者の方が患者しか診ない医者より優れている。

(二) 次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

聖書は、ノースロップ・フライ^(注1)のいわゆる「偉大なる規約」として、中世以来の西欧の思想を伝統的に支配してきた。たとえば旧約聖書「創世記」の第一章に見られる「個別創造説」——神はすべての生物を天地創造の第五日目と六日目に、現在それらが存在しているのと同じかたちにデザインし個別に創造したという考え方——は、すくなくとも中世以降の西欧の、生物種にかんする思想全体をささえる強力なイデオロギー¹的基盤でありつづけた。

そして個別創造によって神によって個別につくられたすべての種は、もつとも不完全な動物から神の完全性のもつとも近くにいる天使へといたる漸次移行的な「自然の階梯^(かいてい)」ないし「存在の大きいなる連鎖」という a 的な「位階的秩序」を形成しているときれていた。別言すれば、あらゆる種は、「連鎖の原理」によって種から種へと徐々に最小の差異をつくりだしながら、それぞれがひとつひとつの環として、「欠けている環^(ミッシング・リンク)」のひとつもない「存在の大きいなる連鎖」を、「充満の原理」にもとづいてうめつくしている。

ジョウゼフ・アインソン^(注2)が言うように、「植物から人間にいたる自然のなかの裂け目はすべて、さまざまな種類の被造物によってみだされ、これらの被造物はひとつずつ積み重なりながら、おだやかにゆるやかに上昇しているので、ひとつの種からもうひとつの種への小さな移行と逸脱はほとんど知覚しえないほど」なのである。

「位階的秩序」、「連続性」、「充満性」という三つの特質から成立するこのような「存在の大きいなる連鎖」は、A・ラヴジョイ^(注3)によってあきらかにされているように、プラトンとアリストテレスに起源をもち、新プラトン主義者により体系化され、そして進化論が登場する直前の一八世紀において空前絶後の普及を達成していた。たとえばアレクザンダー・ポープ^(注4)の『人間論』は、西洋の思想史全体をほとんどつらぬいているその観念の、もつとも典型的な表現となりえている。

存在の巨大なる連鎖よ！ それは、神よりはじまり、
靈妙なる性質、人間的性質、天使、人間、

けだもの、鳥、魚、虫、目に見えるもの、

² ケン 2 微鏡も及ばぬもの、無限より汝へ、

汝より無へといたる。^甲より秀れしものにわれらが

迫る以上、劣れるものはわれらに迫る。

さもなくば、充満せる被造世界のうちに空虚が生じ、

一段が破れ、大いなる階段は崩れ落ちよう。

自然の連鎖より環をひとつ打ち落とせば、

それが十番目であれ、一万番目であれ、鎖も同様にこわれ去る。

このような「存在の大きいなる連鎖」は、たとえ宗教的な意味において人間の靈魂を神への上昇へといざなうことがあつても、基本的には、神によって創造された不変の存在たちがそのなかでそれぞれの固定した地位を維持しつづけている、永遠に変わることのない静的な秩序としてとらえられていた。そして全体の秩序が永遠に不変で静的なものと考えられているかぎりには、たとえ「連鎖の原理」が、ある種とそのすぐ上と下に位置する種とのあいだの裂け目を、A と保証するにしても、それはやはり越えることのできない、越えてはならない絶対的な裂け目でありつづけるをえない。

したがって、そこからつぎのような倫理的・政治的帰結が引き出されることになる。たとえば、「人間が宇宙的秩序において自分より上位の存在の属性を求めたり、上位の存在の特徴的な行動を模倣したりするのは、自分よりも下位の段階に下ることと同様に不道徳である」とする倫理。「ああ、人間よ！ 汝の存在を汝自身のなかに限定せよ、そうすれば、汝はもはや惨めでなくなるであろう。自然が存在の連鎖の中で汝に割り当てた位置にとどまるがいい」(ルソー)。

また、「存在の連鎖」の考え方が人間社会の内部に適用された場合には、それは B 。「秩序が天の第一の法であり、このことが告白されれば、／あるものは他のものより偉大であり、／富んでおり、賢明であるし、またそうでなければならぬ」(ポープ)。

しかしもしも「ひとつの種からもうひとつの種への小さな移行と逸脱はほとんど知覚しえないほど」連続的なものだとするならば、そもそも種という、不連続的な境界線によって区切られたひとまとまりのカテゴリが成立する余地は、論理的に言えばまったくなくなるはずであろうし、実際そのように主張する人びともいた。たとえばシャルル・ボネは、「連続の原理」を徹底しつつ、「われわれよりも高度の知性」は、われわれの世界の階梯のなかに個物と同じ数だけの段階を認める」とのべている。それは、種とは自然には実在しない唯名論的な観念にすぎないとする立場である。

しかしにもかかわらず日常的な経験は、自然における種の実在、種と種のないだの無数の裂け目を容認するはずであろう。自然の体系のなかには無数の裂け目があるように見えるのに、どうすればすべての生物を連続的に移行する一本の連鎖へと配列することができるのか。このことから一八世紀の博物学の関心は、連鎖の中で「欠けている環」の探求——とくに鉱物と植物とのあいだ、植物と動物とのあいだ、および類人猿と人間とのあいだの「欠けている環」の探求——へとむけられる傾向をもつにいたる。その探求は、²ケン微鏡を必要とするミクロの世界をふくむ地球上のあらゆる部分を対象とするだけでは足りず、世界の複数性という観念をもとにして地球以外の惑星にへ未発見の種を想定するところにもまで拡大していく。

しかし一八世紀も後半にいたると、種と種のないだの無数の裂け目というアポリアをまったくべつの観点から解決しようとする傾向も生じてくる。それがラヴジョイのいう「存在の連鎖の時間化」である。種の **b** は、たしかに「存在の連鎖」の静的な構造のなかでは実現されることはないにしても、³きわめてカン慢に進んでいく時間の全ひろがりのなかでは実現しうる。

すなわち、「存在の連鎖は、現在において観察されるところでは完全なものではないが、もしもわれわれが過去、現在、未来にわたる形態の全系列を知ることができるならば、完全なものである、あるいはより完全なものになる傾向をもつと見られるであろう」ということである。こうして「一八世紀も後半にいたると、宇宙的秩序は無限で静的な多様性としてではなく、しだいに多様化していく **c** として構想されるようになって」いくのである。

(丹治愛「神を殺した男」より)

注1 「ノースロップ・フライ(一九二〇〜一九九二)」はカナダの文芸評論家。

注2 「ジョウゼフ・アディソン(二六七二〜一七一九)」はイギリスのエッセイスト、詩人、劇作家、政治家。

注3 「A・ラヴジョイ(一八七三〜一九六二)」はアメリカの哲学者、思想家。

注4 「アレグザンダー・ポープ(二六八八〜一七四四)」はイギリスの詩人。

注5 「シャルル・ボネ(一七二〇〜一七九三)」はスイスの博物学者、哲学者。

注6 「アポリア」とは哲学术語で論理的難点のこと。

問七 傍線部1〜3にあたる漢字がカタカナ部分に使われている語をそれぞれ次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

| | | | | | | | | | | |
|---|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|---|------|
| 1 | イ | 看パン | ロ | パン鐘 | ハ | パン行 | ニ | 門パン | ホ | 羅針パン |
| 2 | イ | ケン金 | ロ | ケン虚 | ハ | ケン識 | ニ | ケン現 | ホ | 創ケン |
| 3 | イ | カン隙 | ロ | カン衝 | ハ | カン遂 | ニ | カン謝 | ホ | カン容 |

問八 空欄 **a** **c** に入る最も適切なものをそれぞれ次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

| | | | | | | | | | | |
|---|---|------|---|-----|---|------|---|------|---|-----|
| a | イ | 構造 | ロ | 図形 | ハ | 立体 | ニ | 単線 | ホ | 網羅 |
| b | イ | 移行 | ロ | 階梯 | ハ | 原理 | ニ | 充満 | ホ | 配列 |
| c | イ | カテゴリ | ロ | コード | ハ | システム | ニ | プロセス | ホ | リンク |

問九 傍線部甲「より秀れしものにわれらが迫る以上、劣れるものはわれらに迫る」が意味するものとして最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 人間は自然の大きいなる連鎖の環のひとつにすぎない。
- ロ すべての存在は、自分より上位の存在になろうとして競い合っている。
- ハ すべての存在が、上位に昇ろうとする努力を怠れば、世界は崩壊してしまう。
- ニ すべての存在は、下位のものから上位のものまで切れ目なく秩序づけられている。
- ホ 自分は自分より秀れているものに追いつこうとし、劣っているものは自分を追い越そうとする。

問十 空欄 A に入る最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 神のみが知りえる最小のもの
- ロ ほとんど知覚しえない最小のもの
- ハ 人間の知覚では認知不可能なもの
- ニ 実はおすかにつながっている見かけ上のもの
- ホ 存在の連鎖により厳密にはつながっているもの

問十一 空欄 B に入る最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 神を否定し人間社会の中だけに閉塞することにもなる
- ロ 秩序が固定され人間から意志を奪う思想を生み出す
- ハ 他人を恨むことなく調和して生きられる社会になりうる
- ニ 競争がなくなり不道德も存在しない世界を肯定する
- ホ 社会的階級の存在を是認するイデオロギーともなる

問十二 傍線部乙「種とは自然には実在しない唯名論的な観念」が意味するものとして最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 種は自然とは無関係な存在
- ロ 種は人間には知覚不能なもの
- ハ 種は人間が自らの知性にもとづいて分けたもの
- ニ 種は個々人によってさまざまに定義しうるもの
- ホ 種はわれわれよりも高度な知性のみが認識しうるもの

問十三 この文章を説明する記述として本文の内容に合致しないものを次の中から二つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ キリスト教圏では長い間、『聖書』があらゆる思想の土台となっていて、科学的な考え方にも大きな影響を与え続けていた。
- ロ 一八世紀において、宇宙をも含む世界は、少しずつ変化しながら、途切れることなく劣った存在から神に近い存在へとつながっていると見なされていた。
- ハ 「存在の大きいなる連鎖」において、人間はその階梯を可視化することができたため、神の高みへと積極的に自分を向上させようとするのが求められた。
- ニ 「存在の大きいなる連鎖」という考え方が、静的な秩序を擁護することによって、人間の自由意志を損ねてきた。
- ホ 一八世紀以降、「欠けている環」に対してより一層の関心が寄せられた結果、地球外生物の可能性が推測されるまでにいたった。

へ 「存在の連鎖」という概念を時間的流れの中でとらえなおすことによって、世界の秩序は変化しうるというダイナミズムの中で見直すことが可能となった。

(三) 次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

また、このおなじ男、聞きならして、まだものはいひふれぬ、ありけり。いかでいひつかむと思ふ心ありければ、つねにこの家の門よりぞ、歩きける。かうありけれど、いひつくたよりもなかりけるを、月などのおもしろかりける夜ぞ、かの門の前渡りけるに、女ども多く立てりければ、馬よりおりて、この男、ものなどいひふれけり。いらへなどしける、男うれしと思ひて、立ちとどまりにけり。この女ども、男の供なりける人に、たれぞと問ひければ、その人なりとぞ答へけるに、この女ども、音にのみ聞きつるを、いざ、呼びすゑて、ものいはむ、いかなると聞かむとて、おなじうは、この庭の月をかしきをも **I** といひければ、この男、なにのよきこととて、もろともに入りけり。女ども集まりて、簾のうちにて、あやしう、音に聞きつるが、うつつに、よそにても、ものをいふことと、男も女もいひかはして、をかしき物語して、女も、心つけてものいふありけり。集まりてものいふなかに、男も、あやしう、うれしくて、いひつきぬることなど思ひてをりけるほどに、この男の乗れる馬、ものに驚きて、引き放ちて、走りければ、わらはべみな馬につきていなければ、わらは一人ぞ、とどまりて、見えしらがひ歩きける。されば、この男、かたはらいたがりて、招きて、なにごとといひければ、されば、早う隠れよとて、追ひ込めてけり。それを、この女ども、なにごとと問ひければ、なにごとにもあらず、馬なむものに驚きて **II** と、男答へければ、いな、これは、夜ふくるまで来ねば、妻のつくりごとしたるなむめり。あな、むくつけ、はかなきたはぶれごとさへ、いふ妻持たらむものはなにかすべきと、心憂がり、ささめきて、みな隠れぬ。この女どもに、この男、あな、わびしや、さらにさもあらずといひけれど、さらに聞かず。はては、ものいひふれむ人もなかりければ、よろづの言葉をひとりごちけれど、さらに答へする人もなかりければ、いひわびてぞ、いでて来にける。さて、つとめて、しぐれければ、男、かくいひやる。

さ夜中に憂き名取川わたるとて濡れにし袖に時雨さへ降るとある返し、

E 時雨のみふるやなればぞ濡れにけむ立ち隠れけむことやくやしき

とありけるに、喜びて、またものなどいひやれど、いらへもせずなりにければ、いはでやみにけり。

〔平中物語より〕

注1 「見えしらがひ」は「わざと目に付くように」という意味。

注2 「されば」は「しかじかという事情だったので」という意味。

注3 「いふ」は「苦情を言う」という意味。

問十四 傍線部A「いひつくたよりもなかりけるを」の解釈として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマ

ークせよ。

イ 男が女に言い寄る手段もなかったのを

ロ 男の評判を聞いた女に出す手紙もなかったので

ハ 男は女にものを言うつもりはなかったのだけれど

ニ 男には女の家のありかを知りつてもなかったのに

ホ 家の門で男を待っている女が男に声をかけたのだが

問十五 傍線部B「音にのみ聞きつるを」の解釈として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 噂に聞くだけでしたのに

ロ 供の声を聞いただけでしたのに

ハ 女たちの足音しか聞こえませんでしたのに

ニ 男と女の声だけしか聞こえませんでしたのに

ホ 馬の蹄の音だけしか聞こえませんでしたのに

問十六 空欄 I に入る語句として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 興じたり 口 見せむ ハ 聞くらむ ニ 言ひけり ホ 覚えけむ

問十七 傍線部 C 「かたはらいたがりて」について、この男の心情の説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 逃げた馬が気がかりで
- 口 一人残った童に感嘆して
- ハ 女たちに間が悪い思いをして
- ニ 自分を待つ妻のことを思い遣って
- ホ 童たちのあわてた様子を面白がって

問十八 空欄 II に入る語句として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 来たりける 口 隠れにけり ハ 追はれけり ニ 放れにける ホ 問はれけり

問十九 傍線部 D 「みな隠れぬ」の理由として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 妻が男に嘘をついたようだったから
- 口 童に男が恋心を抱いているようだったから
- ハ やきもちを焼く妻をもった男にあきれたから
- ニ 男の乗って来た馬の行方がわからなくなったから
- ホ 男がその場で言い訳をしているうちに時雨が降ってきたから

問二十 傍線部 E の返歌「時雨のみふるやなればぞ濡れにけむ立ち隠れけむことやくやしき」の解釈として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 女性にもてるという評判のあなた様なのに、私たちの古い家では時雨に濡れるからと、物陰に身を隠されたのは残念なことです。
- 口 時雨が激しく降るなかで独り言をおっしゃっていましたが、あなた様の古い家になぜ身を隠そうとしたのかと思ふと残念なことです。
- ハ 時雨に降られたように涙で袖を濡らし、奥様と別れたことを悲しんでいるあなた様を見ていると、古い家に住む私たちは悲しくなります。
- ニ 袖が濡れになるほど時雨が激しく降ってきましたが、あなた様が奥様の目を気にして私たちの古い家にお隠れになったのは口惜しいことです。
- ホ あなた様は時雨が濡れるような古い家に奥様と住んでいたから袖が濡れたのでしょうか。私たちが隠れたためではないでしょうに、なぜそんなに口惜しいのでしょうか。

〔以下 余白〕